

# 日韓共同理工系学部留学生プログラム報告 (2013年4月～2014年3月)

副島健治

## 1 はじめに

1998年の日韓首脳会議における「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は、韓国で選抜された高校卒業生を、留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。1999年に第一期生の募集が開始され10年間の第1次事業を経て、2009年の募集から新たな第2次事業が行われている。富山大学はこれまでにこのプログラムに基づく留学生（以下、「日韓生」とする）をのべ9人受け入れた。

## 2 2013年度の本事業による富山大学への学生配置について

富山大学への2013年度の日韓生の新たな配置はなかった。

## 3 富山大学配置の在籍日韓生

これまでに、第7期生までの7人が本学の理学部・工学部から巣立って行った。2013年度における本プログラムの学部在籍者は第10期生2人（理学部4年生1人，工学部4年生1人）である。

## 4 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

### 4.1 構成員

本学における日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の受入れのための準備と円滑な遂行のために「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」(以下、「日韓WG」とする)が2001年4月に立ち上げられ、メンバーの交代を経ながら現在に至っている。

2013年度のメンバーは倉光英樹（理学部，日韓WG座長），柿崎充（理学部），飴井賢治（工学部），バハウ・サイモン・ピーター（留学生センター※），副島健治（留学生センター※），朝野真（学生支援グループ留学支援チーム）で構成されており，副島がコーディネーターを務めている。（※留学生センターは2014年10月より「国際交流センター」に改称。）

### 4.2 日韓WGのミーティング

2013年度は以下のように，日韓WGのミーティングが2回持たれ，日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の本学受入れ等について話し合われた。ミーティングにはWGのメンバーの他，2013年度の「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」参加者も加わった。

○第42回（2013年度第1回）日韓WG ミーティング

日時・場所：2013年7月16日（火）13:00 学務部会議室（五福地区・共通教育棟1階）

○第43回(2013年度第2回)日韓WG ミーティング

日時・場所：2013年11月5日（火）16:30 学務部会議室（五福地区・共通教育棟1階）

### 4.3 その他の活動

韓国ソウルで開催される「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」への参加教職員と日韓WGのメンバーの一部および韓国人ボランティア学生(交換留学生等)での打ち合わせを行った。

日時・場所：2013年7月18日(木) 12:20 場所：留学生センター長室

## 5 日韓共同理工系学部留学生事業協議会

本事業参加の国立大学の全国協議会が、2012年度は下記の日時・場所で開催された。本学からはWGメンバーの飴井賢治と副島健治が参加した。

日時：2013年6月19日(水) 13:00

場所：静岡市産学交流センター

## 6 日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

本事業の筆記試験合格者とその保護者および関係者を対象として、下記の日時・場所で日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア(以下、「フェア」とする)が開催された。このフェアには、日本の33の国立大学が参加した(資料展示のみの6大学を含む)。

本学からは柿崎充(理工学研究部理学系)、飴井賢治(理工学研究部工学系)、佐々木恒大(理学系支援グループ)の3人の教職員が参加し、現地雇用の通訳に加え、韓国人学生4人(本学経済学部2年生と国民大学校からの交換留学生および元留学生)もボランティアとして手伝った。

日時：2013年9月1日(日) 9:30~17:00

場所：大韓民国国立国際教育院(韓国Seoul特別市鐘路区東崇洞181)

午前中、全体に対する説明会等が講堂で行われた後、午後、本事業の採用候補者を対象として各参加大学のブースにおいて説明が行われた。

本学のブースへは15人の訪問があり、その他数名に資料配布を行った。

## 7 おわりに

本事業は1999年より10年計画で開始され、現在も「第2次事業」として継続されている。日韓生を受け入れようとする日本の国立大学は、自大学が進学希望大学として選ばれるように努力しなければならない。そのためにできることはそれほど多くはないものの、前述のフェアがその努力すべきほぼ唯一の機会となっている。そして現実としては、日韓生候補生の進学を希望する日本の大学は、ネームバリューのある大学に集中しがちで、日韓生の配置はおのずとそのような大学に偏る傾向がある。

2013年度のフェアに本学としても参加するかどうかについては、7月の第2回国際戦略本部教育部会で諮られ、参加することが決まった。それを受けて、フェアに実際に行く教職員と日韓WGが主体となり、日韓生の配置が得られるようでき得る努力はしたが、結果として配置はなかった。

日韓生配置のための努力の成果がなかなか上がらないことおよび費用対効果の観点からも、学内においてフェアへの参加についての疑問の声もあがり始めており、現状はきわめて厳しいと言わざるを得ない。富山大学の全学的な意思として、今後どのように舵を切るか決断すべき時期なのかもしれない。もし、富山大学が全学的合意をもって、今後も日韓生の配置を目指すとするならば、理学部あるいは工学部だけにかかる問題としてではなく、大学としての国際戦略の観点から富山大学の将来像を見据えた全学をあげての取り組みが望まれる。